

令和3年2月22日
出入国在留管理庁

東京出入国在留管理局収容施設における新型コロナウイルス感染の状況

1 感染者数

2月22日までに、被収容者39人、看守職員5人（いずれも男性）、看守以外の警備部門職員1人（女性）がPCR検査陽性。

2 感染者の現状

(1) 被収容者

- 被収容者の感染者は、ゾーニングにより設定した専用区域に分離して収容し、経過観察。
- 感染者全員に対し、1日3回の検温及び血中酸素濃度の測定を行うなどし、症状・体調を把握。
症状が悪化する者がある場合などは、速やかに受診・入院等の必要な対応を行う方針で対応。
- 2月19日午後、保健所の指導により、基礎疾患を有する感染者2人（同日14時時点で症状なし）について、入院の措置をとった。
- 2月21日20時現在、頭痛、喉の痛み、味覚障害などの症状を訴える者が13人、37度台の発熱がある者が4人（1人は頭痛等の症状を訴え、3人は症状なし）。

(2) 職員

感染者6人及びこれら感染者と接触があった職員26人を自宅待機としている。

3 判明経緯等

- (1) 2月15日、男子看守職員1人及び男子被収容者4人（帰国準備のための受検者1人及び発熱者3人）がPCR検査陽性。
- (2) そこで、男女問わず被収容者及び看守職員全員を対象とする方針の下順次検査を実施することとした。
- (3) 2月16日、男子看守職員4人及び男子被収容者11人が陽性。
- (4) 2月17日、男子被収容者24人が陽性。
- (5) 感染経路等はなお調査中であるが、男子収容区の複数区域に感染が拡大している状況（収容区が異なる被収容者は原則接触なし。）。
他方、女子収容区は、現在まで陽性者なし。
- (6) 2月18日、看守職員以外の警備部門職員1人（女性）が陽性。

4 参考事項

- 最初に感染が判明した2月15日以降、保健所の指導を受けながら、施設内のゾーニングや消毒等を徹底。
- 陽性の被収容者は順次感染者専用区に移動させ、陰性の被収容者から分離。
- 感染拡大防止のため、面会及び開放処遇を当面中止。

〔2月18日までの検査結果〕

	陽性	陰性	合計
男子被収容者	39	66	105
男子看守職員	5	59	64
女子被収容者	0	27	27
女子看守職員	0	29	29

※その他関係する職員98人にPCR検査を行い、1人の陽性が判明。

〔2月19日から2月22日までの検査結果〕

	陽性	陰性	合計
男子看守職員	0	72	72
女子看守職員	0	29	29

※男子看守職員には、応援の職員も含む。

※その他関係する職員100人にPCR検査を行い、全員陰性。

※2月18日までに陰性となった被収容者に対しても、近日中に再度の検査を実施予定。